英文法 L01 第 25 講 助動詞による基本的な推量

学習目標

確信の程度が明示された文脈で、must・may・cannot を使った基本的な推量表現を選ぶことができる。

1. 推量とは何か

推量

推量とは、手がかりをもとに、ある物事について話し手がどう考えているかを表すことである。

英語では、助動詞の must・may・cannot を使い、話し手がどのように判断しているかを表せる。

例えば、友人が長い距離を歩いてきたと知っていれば、「疲れているに違いない」と考えるかもしれない。一方、友人が今どこにいるか分からなければ、「家にいるかもしれない」と可能性を述べることもできる。

このように、**同じ出来事についても、話し手がどのような根拠を持ち、どの程度確信しているかによって、使う表現が変わる。**

3 つの基本的な推量表現

助動詞	話し手の判断	基本の意味
must	根拠から強くそう判断する	～に違いない
may	そうである可能性を認める	～かもしれない
cannot	根拠から強く否定する	～のはずがない

ここでの must は義務を表す「～しなければならない」ではなく、根拠から導いた強い推量を表す。

may は可能性を表すが、may を使ったからといって、実際にその出来事が起こる確率が何%かまで決まるわけではない。また、cannot は「そうであるはずがない」という話し手の強い否定的な判断を表す。

いずれも話し手の判断を示す表現であり、その判断が現実に必ず正しいと保証するものではない。

©ミライコーチング

2. 手がかりから推量する



図 1　手がかりと話し手の判断

図中の CLUES → GUESS は「手がかりから推量へ」という関係を表す。また、CLOSED は「休業中」、SUNDAY は「日曜日」という意味である。

① must：根拠から強く判断する

Pair 1

He must be tired.

彼は疲れているに違いない。
彼が長時間歩き続けていたと知っている場面を考える。話し手はその情報を根拠に、「彼は疲れているに違いない」と強く判断している。

この must は、彼に何かをするよう義務づけているのではなく、彼の状態を推量している。

② may：可能性を述べる

Pair 1

She may be at home.

彼女は家にいるかもしれない。
家のドアが閉まっていて、中に彼女がいるかどうか分からない場面を考える。

話し手には在宅だと断定できる根拠がない。しかし、家にいる可能性はあるため、may を使っている。

may は、可能性を述べるだけであり、在宅であると強く確信していることまでは表さない。

©ミライコーチング

③ cannot：根拠から強く否定する

Pair 1

The shop cannot be open.

その店が開いているはずがない。
その店が毎週日曜日に休業することを確かに知っており、今が日曜日である場面を考える。

話し手は休業日という情報を根拠に、「店が開いているはずがない」と強く判断している。

単に日曜日であるだけで、すべての店が休業すると判断できるわけではない。ここでは、その店が日曜日に休むという情報が判断の根拠になっている。

判断の中心

推量の助動詞を選ぶときは、出来事そのものだけでなく、**話し手が何を根拠に、どの程度確信しているか**を確認する。

例えば、ある状況で must を使えるからといって、may が必ず文法的に誤りになるわけではない。may を使えば、話し手の判断を「可能性がある」という形で表すことになる。

問題では、示された文脈と話し手の判断に最も合う表現を選ぶ。

---

3. 推量の助動詞と動詞の形

助動詞の後ろは動詞の原形

must・may・cannot の後ろには、基本的に動詞の原形を置く。

主語 ＋ must / may / cannot ＋ 動詞の原形

be 動詞を使うときも同じで、am・is・are ではなく、原形の be を置く。

助動詞	正しい形	意味
must	must be	～であるに違いない
may	may be	～であるかもしれない
cannot	cannot be	～であるはずがない

主語が三人称単数でも、助動詞の後ろの動詞に三単現の s は付けない。

また、助動詞と動詞の原形の間に to を入れたり、動詞をそのまま ing 形にしたりしない。

---

must not と cannot の違い

must not は、禁止の意味で「～してはいけない」を表すことがある。

Pair 1

You must not enter.

あなたは入ってはいけない。
この must not は、相手の行動を禁止している。

一方、推量の cannot は「～のはずがない」という強い否定的な判断を表す。

したがって、**推量の must を否定したいからといって、機械的に must not にすればよいわけではない。**

「〜のはずがない」という基本的な推量は、本講では cannot を使って表す。

4. 例題

1

次の英文の空所に入る最も適切な語を選べ。

話し手は、彼が休まず長時間歩いたことを根拠に、「非常に疲れているに違いない」と強く判断している。

He walked for six hours without a break.

He (　　) be very tired after that walk.

A. may

B. cannot

C. must

D. can

解答・解説

正解：C. must

まず、判断の根拠を確認する。彼は休憩せずに 6 時間歩いている。その情報をもとに、話し手は彼が非常に疲れていると強く判断している。

この強い推量を表すのが must である。助動詞の後ろには原形の be が続く。

Pair 1

He walked for six hours without a break.

彼は休憩せずに 6 時間歩いた。

Pair 2

He must be very tired after that walk.

あれだけ歩いたのだから、彼は非常に疲れているに違いない。

各選択肢の確認

A. may：「〜かもしれない」という可能性を表す。may be は文法的に成立するが、ここで指定された強い判断を表すには弱いため、不適切。

B. cannot：「〜のはずがない」という強い否定の推量を表す。「疲れているはずがない」となり、話し手の判断と反対になるため、不適切。

C. must：「〜に違いない」という強い推量を表す。話し手の判断に一致し、must be という形も正しい。

D. can：能力や一般的な可能性などを表す。can be は文法上成立する場合があるが、この場面で求められている強い推量を表すものではないため、不適切。

2

次の英文の空所に入る最も適切な語を選べ。

話し手は彼女が家にいるかどうか分からず、在宅の可能性だけを述べたいと考えている。

We cannot see inside the house.

She (　　) be at home now.

A. must

B. may

C. cannot

D. should

解答・解説

正解：B. may

話し手は家の中を見ることができず、彼女が在宅しているかどうかを確認できない。

在宅だと強く判断する根拠も、不在だと強く判断する根拠もない。そこで、在宅の可能性を述べる may が適切である。

Pair 1

We cannot see inside the house.

私たちは家の中を見ることができない。

Pair 2

She may be at home now.

彼女は今、家にいるかもしれない。

各選択肢の確認

A. must：「家にいるに違いない」という強い判断になる。在宅だと強く判断する根拠がなく、指定された意味より強いため、不適切。

B. may：「家にいるかもしれない」と可能性を表す。話し手の判断に合っており、may be の形も正しい。

C. cannot：「家にいるはずがない」という強い否定の推量になる。不在だと強く判断する根拠はなく、不適切。

D. should：「家にいるはずだ」など、期待や予想を表すことがある。しかし、この場面では在宅を予想する根拠がなく、単に可能性を述べるという指定にも合わない。

©ミライコーチング

5. 演習問題

次の各問について、空所に入る最も適切な語または語句を A〜D から 1 つ選べ。

1

次の文で、must の後ろに続く動詞の形として正しいものを選べ。

She must (　　) very tired after the long walk.

A. be

B. is

C. being

D. to be

2

次の文で、may の後ろに続く動詞の形として正しいものを選べ。

The missing key may (　　) inside that small box.

A. is

B. to be

C. be

D. being

3

次の文で、cannot の後ろに続く動詞の形として正しいものを選べ。

The answer cannot (　　) correct if the total is wrong.

A. is

B. be

C. being

D. to be

©ミライコーチング

4

次の文で、may の後ろに続く動詞の形として正しいものを選べ。

We may (　　) the new museum this afternoon.

A. visits

B. visiting

C. to visit

D. visit

5

次の英文の空所に入る最も適切な語を選べ。

話し手は当日のチーム名簿を信頼しており、彼女がそのチームに所属しているに違いないと強く判断している。

Her name is on today's team list.

She (　　) be on the team.

A. may

B. must

C. cannot

D. can

6

次の英文の空所に入る最も適切な語を選べ。

図書館のドアは閉まっているが、それだけでは司書が中にいるかどうか分からない。話し手は、司書が中にいる可能性だけを述べたい。

The library door is closed.

The librarian (　　) be inside.

A. cannot

B. must

C. should

D. may

©ミライコーチング

7

次の英文の空所に入る最も適切な語を選べ。

話し手は、この店が毎週日曜日に休業することを確かに知っている。今日は日曜日なので、「開いているはずがない」と強く判断している。

Today is Sunday.

This shop (　　) be open today.

A. may

B. cannot

C. must

D. can

8

次の英文の空所に入る最も適切な語を選べ。

アンナが今どこにいるかは分からない。話し手は、アンナがバスに乗っている可能性だけを述べたい。

We have no news about Anna.

She (　　) be on the bus now.

A. may

B. must

C. cannot

D. should

©ミライコーチング

演習問題の解答・解説

1

正解：A. be

must の後ろには動詞の原形を置く。be 動詞を使う場合は、主語が She でも原形の be を使う。

Pair 1

She must be very tired after the long walk.

長い距離を歩いた後なので、彼女はとても疲れているに違いない。

各選択肢の確認

A. be：be 動詞の原形であり、must の後ろに置ける。正解。

B. is：「〜である」を表す be 動詞の現在形。must の後ろでは原形を使うため、不適切。

C. being：be の ing 形。must の直後にこの形をそのまま置くことはできないため、不適切。

D. to be：「〜であること」などを表す形だが、must の直後に to は不要であるため、不適切。

2

正解：C. be

may の後ろには動詞の原形を置く。鍵が箱の中にある可能性を述べる文なので、may be という形にする。

Pair 1

The missing key may be inside that small box.

なくなった鍵は、あの小さな箱の中にあるかもしれない。

各選択肢の確認

A. is：be 動詞の現在形。may の直後には原形を置くため、不適切。

B. to be：「〜であること」などを表す形。may の直後には to を入れないため、不適切。

C. be：be 動詞の原形。may be で「〜であるかもしれない」と表せるため、正解。

D. being：be の ing 形。may の直後にこの形をそのまま置くことはできないため、不適切。

3

正解：B. be

cannot の後ろにも動詞の原形を置く。主語が The answer でも形は変わらず、cannot be となる。

Pair 1

The answer cannot be correct if the total is wrong.

合計が間違っているなら、その答えが正しいはずはない。

各選択肢の確認

A. is：be 動詞の現在形。cannot の直後には原形を置くため、不適切。

B. be：be 動詞の原形。cannot be で「〜であるはずがない」と表せるため、正解。

C. being：be の ing 形。cannot の直後にこの形をそのまま置くことはできないため、不適切。

D. to be：「〜であること」などを表す形。cannot の直後には to を入れないため、不適切。

4

正解：D. visit

may の後ろに続く一般動詞も原形にする。visit は「訪れる」という意味であり、may visit で「訪れるかもしれない」と表せる。

Pair 1

We may visit the new museum this afternoon.

私たちは今日の午後、新しい博物館を訪れるかもしれない。

各選択肢の確認

A. visits：visit に三単現の s が付いた形。助動詞の後ろでは三単現の s を付けないため、不適切。

B. visiting：visit の ing 形。may の直後にこの形をそのまま置くことはできないため、不適切。

C. to visit：「訪れること」などを表す形。may の直後には to を入れないため、不適切。

D. visit：「訪れる」という意味の動詞の原形。may の後ろに置く形として正しいため、正解。

5

正解：B. must

話し手は、彼女の名前が当日のチーム名簿に載っていることを根拠に、彼女がチームに所属していると強く判断している。

このような強い推量には must を使う。

Pair 1

Her name is on today's team list.

彼女の名前は今日のチーム名簿に載っている。

Pair 2

She must be on the team.

彼女はそのチームに所属しているに違いない。

各選択肢の確認

A. may：「所属しているかもしれない」という可能性を表す。may be は文法的に成立するが、指定された強い判断を表すには弱いため、不適切。

B. must：「所属しているに違いない」という強い推量になる。話し手の判断と一致するため、正解。

C. cannot：「所属しているはずがない」という強い否定の推量になる。名簿を根拠とする話し手の判断と反対になるため、不適切。

D. can：能力や一般的な可能性などを表す。can be が文法的に成立する場合はあるが、指定された強い推量を表すには適切でない。

6

正解：D. may

図書館のドアが閉まっていることだけでは、司書が中にいるとも、いないとも断定できない。

話し手は司書が中にいる可能性だけを述べたいので、may が適切である。

Pair 1

The library door is closed.

図書館のドアは閉まっている。

Pair 2

The librarian may be inside.

司書は中にいるかもしれない。

各選択肢の確認

A. cannot：「中にいるはずがない」という強い否定の推量になる。ドアが閉まっているだけでは不在だと強く判断できず、不適切。

B. must：「中にいるに違いない」という強い推量になる。在室だと強く判断する根拠がなく、不適切。

C. should：「中にいるはずだ」など、期待や予想を表すことがある。この場面には、そのように予想する根拠が示されておらず、不適切。

D. may：「中にいるかもしれない」と可能性を表す。話し手の判断と一致するため、正解。

7

正解：B. cannot

話し手は、この店が毎週日曜日に休業することを確かに知っている。さらに、今日は日曜日である。

この 2 つの情報を根拠に、店が開いていることを強く否定しているため、cannot が適切である。

Pair 1

Today is Sunday.

今日は日曜日だ。

Pair 2

This shop cannot be open today.

この店が今日開いているはずはない。

各選択肢の確認

A. may：「今日開いているかもしれない」という可能性を表す。話し手が確かに知っている休業日の情報と合わず、不適切。

B. cannot：「今日開いているはずがない」という強い否定の推量になる。休業日という根拠と話し手の判断に一致するため、正解。

C. must：「今日開いているに違いない」という強い肯定の推量になる。話し手の判断と反対になるため、不適切。

D. can：能力や一般的な可能性などを表す。ここで指定された「開いているはずがない」という強い否定の判断を表せないため、不適切。

8

正解：A. may

アンナの現在の居場所は分かっていない。話し手は、アンナがバスに乗っている可能性だけを述べたい。

このように、確かな判断をせずに可能性を述べる場合は may を使う。

Pair 1

We have no news about Anna.

私たちはアンナについて何の知らせも受け取っていない。

Pair 2

She may be on the bus now.

彼女は今、バスに乗っているかもしれない。

各選択肢の確認

A. may：「バスに乗っているかもしれない」という可能性を表す。話し手の判断に一致するため、正解。

B. must：「バスに乗っているに違いない」という強い推量になる。そう強く判断する根拠はなく、不適切。

C. cannot：「バスに乗っているはずがない」という強い否定の推量になる。乗っていないと強く判断する根拠もなく、不適切。

D. should：「バスに乗っているはずだ」など、期待や予想を表すことがある。しかし、バスに乗っていると予想する根拠は示されておらず、可能性だけを述べるという指定にも合わない。

©ミライコーチング